

⑮ Int. Cl.⁴
B 65 D 41/28

識別記号 庁内整理番号
6727-3E

⑬ 公開 昭和60年(1985)3月6日

審査請求 未請求 (全2頁)

⑭ 考案の名称 液体等の流動物収納容器

⑰ 実 願 昭58-124864

⑱ 出 願 昭58(1983)8月10日

⑲ 考 案 者 井 高 博 名古屋市中村区名駅南一丁目2番13号 株式会社貫目本店 内

⑳ 出 願 人 株式会社 貫目本店 名古屋市中村区名駅南一丁目2番13号

㉑ 代 理 人 弁理士 岡田 英彦

㉒ 実用新案登録請求の範囲

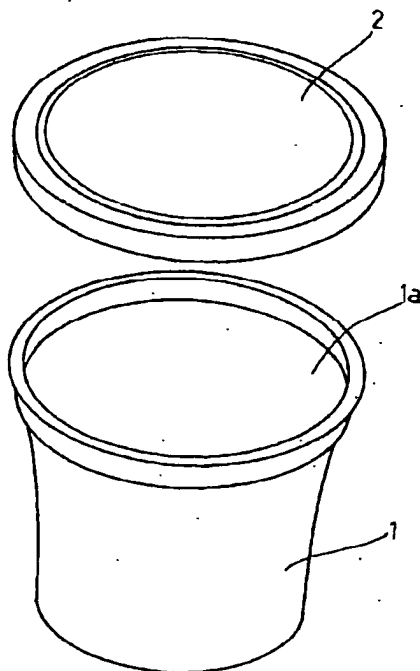
主として液体等の流動物を収納するための容器本体の上周縁には断面ほぼ「コ」型のフランジ部を形成し、前記容器本体の上部開口部を覆蓋するための蓋板の外周縁には前記フランジ部を水密状に抱合しうる状態に差込み可能な断面ほぼコの字状のエッジ部を弾性変形可能に形成したことを特徴とする流動物収納容器。

図面の簡単な説明

図は本考案の一実施例を示し、第1図は容器本体と蓋板の閉蓋前を示す斜視図、第2図は蓋板の側断面図、第3図は容器本体の正面図、第4図は容器本体と蓋板の閉蓋状態を示す拡大断面図である。

1…容器本体、2…蓋体、2c…エッジ部、1b…フランジ部。

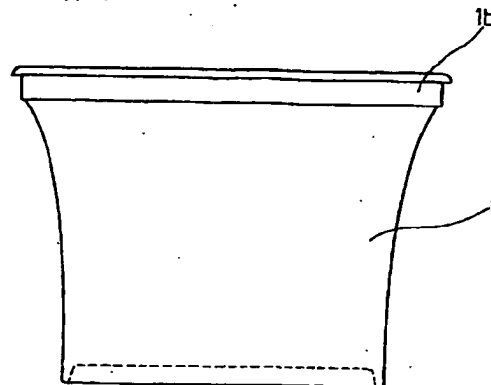
第1図



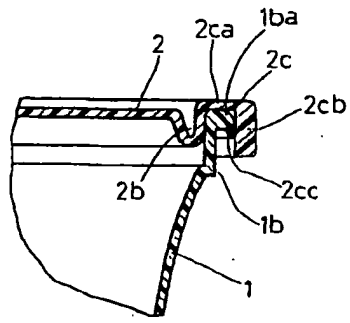
第2図



第3図



第 4 図



公開実用 昭和 60— 33050

⑤ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑨ 公開実用新案公報(U)

昭60-33050

⑥ Int. Cl.⁴

B 65 D 41/28

識別記号

庁内整理番号

6727-3E

⑧ 公開 昭和60年(1985)3月6日

審査請求 未請求 (全 頁)

④ 考案の名称 液体等の流動物収納容器

⑦ 実 願 昭58-124864

② 出 願 昭58(1983)8月10日

⑦ 考 案 者 井 高 博 名古屋市中村区名駅南一丁目2番13号 株式会社貫目本店
内

① 出 願 人 株式会社 貫目本店 名古屋市中村区名駅南一丁目2番13号

③ 代 理 人 弁理士 岡田 英彦



明 細 書

1. 考案の名称

液体等の流動物収納容器

2. 実用新案登録請求の範囲

主として液体等の流動物を収納するための容器
本体の上周縁には断面ほぼ「型」のフランジ部を形成し、前記容器本体の上部開口部を覆蓋するための蓋板の外周縁には前記フランジ部を水密状に抱合しうる状態に差込み可能な断面ほぼコの字状のエッジ部を弾性変形可能に形成したことを特徴とする流動物収納容器。

3. 考案の詳細な説明

本考案は液体等の流動物を水密状に収納し得る収納容器に関するものである。

従来、液体等の流動物を収納するための容器は種々存在するが、いずれも容器本体と蓋体との嵌合状態が悪く、容器を傾斜させた場合等には内部の液体等が漏出する虞れがあった。本考案は特にシロップ等の濃度の高い液体（普通の水よりも漏れ率が大である液体）の漏出を旨無にし、しかも

(1)



製作及蓋体の着脱が容易になし得る液体等流動物のための収納容器を提供することを目的とし、その要旨は主として液体等の流動物を収納するための容器本体の上周縁には断面ほぼ「型」のフランジ部を形成し、前記容器本体の上部開口部を覆蓋するための蓋板の外周縁には前記フランジ部を水密状に抱合しうる状態に差込み可能な断面ほぼコの字状のエッジ部を弾性変形可能に形成したことを特徴とする流動物収納容器にある。

次に本考案を具体化した一実施例を図面に基づいて説明する。

1 は、合成樹脂材からなる有底筒状に成型された容器本体であって、液体等の流動物、たとえばシロップとかゼリー状の菓子類を収納することができる。2 は蓋板であって、前記容器本体1の上部開口部1aのフランジ部に対して水密状に嵌着されるものである。この蓋板2を第2図の断面図に示す一例に基づいて詳述すると、この蓋体2は透明で弾性を有する合成樹脂材にて一体成型されていて、その中心部は円板状の平板部2aに形成



され、この平板部 2 a の外周縁部には断面ほぼ V 字状に形成された凹溝部 2 b が平板部 2 a より下方に向けて一体突出されている。

さらにこの凹溝部 2 b の外周囲には断面ほぼコの字状のエッジ部 2 c が一体形成されていて、このエッジ部 2 c は、容器本体 1 の上周縁に形成された断面ほぼ「」形状のフランジ部 1 b を外方より水密状に抱合し、かつ凹溝部 2 b を介して容器本体 1 のフランジ部 1 b に対して外部への弾性変形が可能である。このため第 4 図に示すようにエッジ部 2 c の水平部 2 c a とこの水平部 2 c a の端部より下方に連続する垂直部 2 c b とこの垂直部 2 c b の内側面より一体突出形成された係止突片部 2 c c とにより、フランジ部 1 b の水平突部 1 b a が挟持抱合されるため、エッジ部 2 c のコの字状の内周面がフランジ部 1 b の外周面に当接密嵌されることになる。

さて上記実施例のように構成された収納容器を使用する場合には、容器本体内に収納すべきシロップ又はゼリー等の流動物又はゲル状物を収納し

(3)



てから容器本体 1 の上部開口部 1 a 上方よりその周縁に沿って蓋板 2 を押圧嵌着するとよく、その場合蓋板は上方からの押圧力によりエッジ部 2 c の端部を形成する垂直部 2 c b の下端部がフランジ部 1 b の水平突部 1 b a の上面に圧接状に差込まれるため垂直部 2 c b は凹溝部 2 b から外方へ変形されるとともに、この垂直部 2 c b はフランジ部 1 b の水平突部 1 b a 上面が外方へ移動されるとともに、さらに外縁から下方へと移動して、水平突部 1 b a を巻き込みながら抱合することができる。そして垂直部 2 c b の内側面より突出形成された係止突片部 2 c c が水平突部 1 b a の下面に係着されて、水平突部 1 b a が水平部 2 c a と係止突片部 2 c c により垂直方向に水密状に挟合される。この時、合成樹脂材の弾性により、垂直部 2 c b は水平突部 1 b a を外方より容器内方（水平方向）へ押圧するためフランジ部 1 b はさらに水平方向へも水密状に挟持抱合されることになる。

逆に容器本体 1 より蓋板 2 を取りはずす場合に

(4)



は、垂直部 2 c b の下端を指等により外方へ押圧して垂直部 2 c b は凹溝部 2 b から外方へ曲げられ、係止突片部 2 c c が水平突部 1 b a から離脱すると結局、蓋板 2 が容器本体 1 より容易に離反するため、この蓋板 2 を取り外すことができる。

このように本例における収納容器を密封したときには、内部に収納する液体等の流動物の漏出が防止されるとともに開蓋時にはこの蓋板 2 を取外すことが容易となる特徴がある。

さて本考案は主として液体等の流動物を収納するための容器本体の上周縁には断面ほぼ「型」のフランジ部を形成し、前記容器本体の上部開口部を覆蓋するための蓋板の外周縁には前記フランジ部を水密状に抱合しうる状態に差込み可能な断面ほぼコ字状のエッジ部を弾性変形可能に形成したことを特徴とする流動物収納容器であり、蓋板の周縁部に形成された断面ほぼコ字状のエッジ部が容器本体の上周縁に形成されたフランジ部を外方より水密状に抱合することができるため、容器本体の内部に収納された流動物等の漏出を防止する



ことができ、しかも、前記エッジ部は弾性変形可能に成形されているため、容器本体からの蓋板の層脱が容易であるという効果を奏するものである。

4. 図面の簡単な説明

図は本考案の一実施例を示し、第1図は容器本体と蓋板の閉蓋前を示す斜視図、第2図は蓋板の側断面図、第3図は容器本体の正面図、第4図は容器本体と蓋板の閉蓋状態を示す拡大断面図である。

1 … 容器本体

2 … 蓋 体

2c … エッジ部

1b … フランジ部

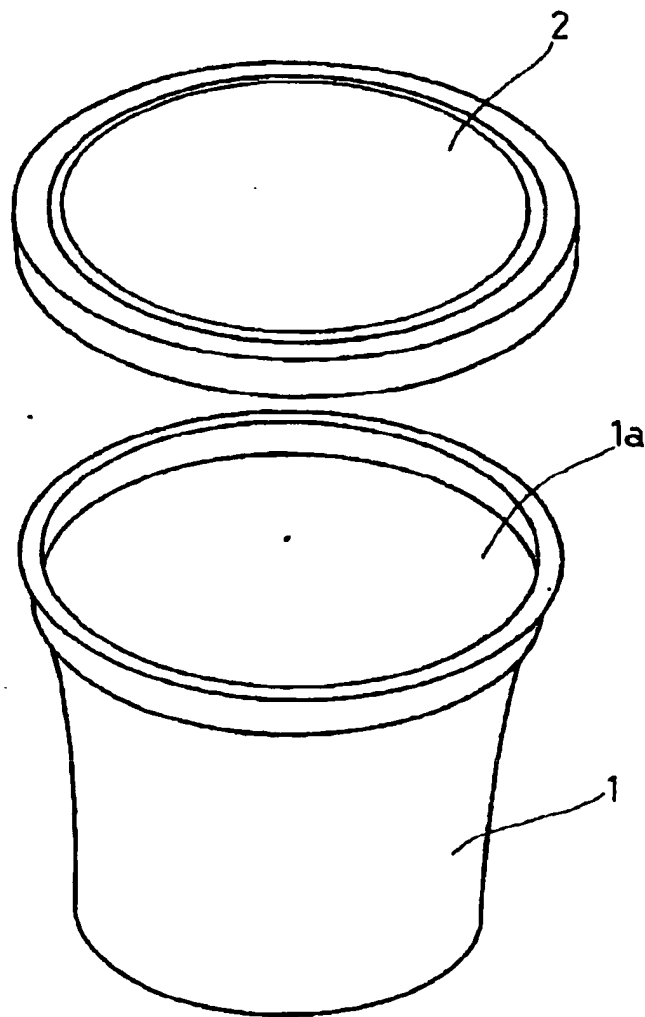
出 願 人

株式会社 貫 目 本 店

代 理 人

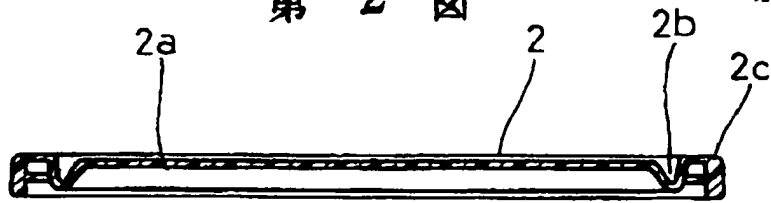
弁理士 岡 田 英 彦

第 1 図

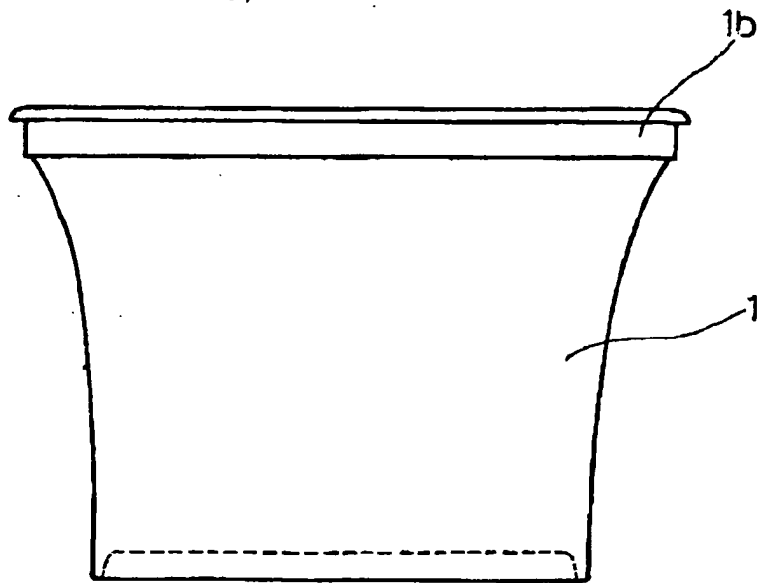


図面その②
後図面無し

第 2 図



第 3 図



第 4 図

